

はじめに

センター試験の内容は、学習指導要領の改訂に伴って10年単位で見直しが行われています。最近では2006年度にリスニングが加わり、2007年度以降は全般的な出題傾向にもかなりの変化が見られます。

その変化を一口で言えば、「**英語の実用的な運用能力を問う傾向が強まった**」ということです。たとえば2008年度以降、第6問（長文読解問題）の素材から「物語文」が消えました。それ以前の第6問の長文素材は一貫して「心温まる小さな物語やエピソード」でしたが、2008年度以降は論説文に近い内容の文章が出題されています。

こうした出題傾向の変化をふまえて、本書では**2007年度以降の新しいセンター試験に対応する得点力を、文法・読解の両面から養う**ことをねらいとしています。一般に入試対策で重要なのは、その試験に的を絞った学習です。センター試験で問われる知識は、学習分野・レベルとも「実生活でよく使われる英語」をベースとしています。思想や政治経済関係などの難解な文章を読んだり、文法書を丸暗記したりする必要はありません。本書は、「**過去のセンター試験の問題を解くことによって、センター対策に必要な学力をつける**」ために編集したものです。本書を十分に活用して学習し、英語（筆記）のセンター試験で200点満点を目指しましょう！

本書の出版に当たっては、ジャパントイムズ出版局の伊藤秀樹さん、川上真佐美さんに大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

2009年8月

著者

Contents 目次

はじめに	3
本書の特徴と使い方	11
センター試験対策のポイント	15

第1章 時制 20

基本問題

STEP 1 時・条件を表す節中の現在形	20
STEP 2 時・条件を表す節中の現在完了形	21
STEP 3 近い未来の予定を表す現在進行形	21
STEP 4 過去進行形	21
STEP 5 未来進行形	22
STEP 6 進行形にできない動詞	22
STEP 7 現在完了形・現在完了進行形	22
STEP 8 過去完了形・過去完了進行形	23
STEP 9 未来完了形	23
STEP 10 現在完了形を使えない場合	24
STEP 11 時制の一致	24

文法演習	25
------	----

読解演習	32
------	----

第2章 受動態 34

基本問題

STEP 12 助動詞 + 受動態	34
STEP 13 完了形の受動態	34
STEP 14 進行形の受動態	34
STEP 15 文型と受動態	35
STEP 16 能動態と受動態の識別	35

文法演習	36
------	----

読解演習	40
------	----

第3章 仮定法 42

基本問題

STEP 17 仮定法過去	42
STEP 18 仮定法過去完了	43
STEP 19 混合仮定法	43
STEP 20 If S should [were to] V~	43
STEP 21 「もし~がなかったら」	44
STEP 22 I wish + 仮定法	44
STEP 23 as if [though] + 仮定法	44
STEP 24 if 節の代用語句	45
STEP 25 if 節の省略	45
STEP 26 if 節の省略による倒置	46
STEP 27 仮定法を使った控えめな表現	46
STEP 28 仮定法現在	46

文法演習	47
------	----

読解演習	52
------	----

第4章 助動詞 54

基本問題

STEP 29 would / should の用法	54
STEP 30 would like to do	54
STEP 31 would rather A (than B)	55
STEP 32 助動詞の否定形	55
STEP 33 助動詞 + have + 過去分詞——過去への推量	55
STEP 34 助動詞 + have + 過去分詞——過去の不成立	56
STEP 35 動詞を強調する do / 代動詞の do	56
STEP 36 そのほかの助動詞	57
STEP 37 助動詞を含む慣用表現	57

文法演習	58
------	----

読解演習	62
------	----

第5章 文型・動詞の語法 64

基本問題

- STEP 38 第1・第3・第4文型 64
- STEP 39 第2・第5文型 65
- STEP 40 There で始まる文 65
- STEP 41 自動詞と他動詞の識別 66
- STEP 42 V + to do 66
- STEP 43 V + O + to do 67
- STEP 44 V + that 節 67
- STEP 45 形・意味の紛らわしい動詞 68

文法演習 70

読解演習 78

第6章 疑問文・疑問詞 81

基本問題

- STEP 46 付加疑問 81
- STEP 47 間接疑問 82
- STEP 48 疑問詞 + do you think ~? など 82
- STEP 49 疑問詞を含む重要表現 83

文法演習 84

読解演習 88

第7章 不定詞 91

基本問題

- STEP 50 不定詞の名詞用法 91
- STEP 51 不定詞の形容詞用法 92
- STEP 52 不定詞の副詞用法 92
- STEP 53 疑問詞 + to do 93
- STEP 54 不定詞の否定形／代不定詞 93
- STEP 55 進行形／受動態の不定詞 93
- STEP 56 be動詞 + to do 94
- STEP 57 原形不定詞 94
- STEP 58 完了不定詞 (to have + 過去分詞) 95

文法演習 96

読解演習 102

第8章 分詞 105

基本問題

- STEP 59 名詞を修飾する分詞 105
- STEP 60 SVC の C になる分詞 106
- STEP 61 SVOC の C になる分詞 106
- STEP 62 感情を表す分詞 107
- STEP 63 分詞構文の基本形 108
- STEP 64 分詞構文を使った慣用表現 108
- STEP 65 with 構文 (付帯状況) 109
- STEP 66 分詞を含むそのほかの表現 109

文法演習 110

読解演習 117

第9章 動名詞 121

基本問題

- STEP 67 〈V + ~ing〉と〈V + to do〉① 121
- STEP 68 〈V + ~ing〉と〈V + to do〉② 122
- STEP 69 動名詞の意味上の主語 123
- STEP 70 前置詞 + 動名詞 123
- STEP 71 動名詞を含む慣用表現 124

文法演習 125

読解演習 129

第10章 関係詞 132

基本問題

- STEP 72 関係代名詞—— who / which / that 132
- STEP 73 目的格の関係代名詞の省略 133
- STEP 74 前置詞 + 関係代名詞 133
- STEP 75 関係副詞 134
- STEP 76 関係代名詞・関係副詞・接続詞の識別 135
- STEP 77 関係代名詞—— what 135
- STEP 78 関係詞の非制限用法 136
- STEP 79 複合関係詞／No matter + 疑問詞 136
- STEP 80 連鎖関係詞節 137

文法演習	138
読解演習	146

第11章 比較 151

基本問題

STEP 81	原級を含む表現	151
STEP 82	less を使った比較	152
STEP 83	「～すればするほど…」	153
STEP 84	比較級・最上級を含むそのほかの表現	153
STEP 85	比較級・最上級の強調	154
STEP 86	「～よりも」のバリエーション	155
STEP 87	比較対象の省略	155
STEP 88	比較を含む慣用表現	156

文法演習	157
読解演習	162

第12章 前置詞 166

基本問題

STEP 89	by と till [until] の識別	166
STEP 90	during (前置詞) と while (接続詞) の識別	166
STEP 91	そのほかの注意すべき前置詞	167

文法演習	169
------	-----

第13章 接続詞 172

基本問題

STEP 92	that の用法	172
STEP 93	whether の用法	172
STEP 94	接続詞に続く〈S + be 動詞〉の省略	173
STEP 95	相関接続詞	173
STEP 96	接続副詞	174
STEP 97	そのほかの注意すべき接続詞	174

文法演習	176
読解演習	180

第14章 itを含む構文 185

基本問題

STEP 98	形式主語の it ①	185
STEP 99	形式主語の it ②	186
STEP 100	形式主語の it ③	186
STEP 101	形式主語の it ④	187
STEP 102	形式目的語の it	187
STEP 103	強調構文	188
STEP 104	it を含むそのほかの構文	188

文法演習	189
読解演習	193

第15章 名詞・代名詞 195

基本問題

STEP 105	可算名詞と不可算名詞の識別	195
STEP 106	意味の紛らわしい名詞の識別	196
STEP 107	所有代名詞の用法	196
STEP 108	some / any の用法	196
STEP 109	one の用法	197
STEP 110	that / those の用法	198
STEP 111	other などの用法	198
STEP 112	そのほかの注意すべき代名詞	199

文法演習	200
読解演習	207

第16章 形容詞・副詞 209

基本問題

STEP 113	数量を表す形容詞 ①	209
STEP 114	数量を表す形容詞 ②	210
STEP 115	名詞の前に置けない形容詞	210
STEP 116	人間を主語にできない形容詞	211
STEP 117	形の似た形容詞の識別	211
STEP 118	be 動詞 + 形容詞 / 分詞など + to do	212
STEP 119	副詞の強調による〈V + S〉の倒置	213

STEP 120	「～もまた…」の表現	213
STEP 121	副詞と代名詞の語順	214
STEP 122	形容詞・副詞と冠詞の語順	214
STEP 123	語法に注意すべきそのほかの形容詞・副詞	215
文法演習		216
第17章	否定・特殊構文	223
基本問題		
STEP 124	not と省略	223
STEP 125	部分否定と全面否定	224
STEP 126	同格	225
STEP 127	無生物主語	225
STEP 128	名詞構文	226
文法演習		227
読解演習		231
総合文法演習		234
総合読解演習		250

本書の特徴と使い方

本書の5つの特徴

① すべての演習問題を、センター試験の過去問から選んでいる。

過去問を解くことは、センター試験対策として最も効率的な学習法と言えます。その主な理由は、次の2つです。

1. 同じ学習項目に関する問いが、過去に繰り返し出題されている。
2. センター試験の出題者には「過去問の再利用」が認められている。

本書は過去のセンター試験の文法問題をほぼ網羅しているので、繰り返し出題されたポイントを重点的に学習できます。また、古い年度の問題も収録したのは、類似問題がセンター試験に再び出題される可能性があるからです。

※ 出典は問題の末尾に示しています。たとえば「(99本)」は「1999年度本試験」、「(05追)」は「2005年度追試験」の意味です。

② 「センター試験に出る可能性の高い項目」だけに絞っている。

本書は、「過去に出題されたことのある学習項目＝今後出題される可能性が高い学習項目」という立場を取っています。ここで、「過去に出題されたことのない項目が、今後出題されるかもしれない」という疑問が当然起こるでしょう。しかし、その点は問題ありません。過去のセンター試験では、頻度の差はありますが、各分野の重要なポイントがむらなく出題されており、過去問を解くだけで文法の全範囲をチェックすることが十分に可能です。その一方で、日常的なコミュニケーションにあまり使われない知識は、センター試験では出題されません。例を挙げてみましょう。

・ It being Sunday, all the shops were closed.
(日曜日だったので、店は閉まっていた)

記号の使用例

本書では、文構造を理解するためのヒントを赤い記号で示しています。

① ② ③
s The book he lent me (two weeks ago) v was c very interesting.
(彼が2週間前に私に貸してくれた本は、とてもおもしろかった)

① ②
The doctor told him [that (if he didn't stop smoking) s' he
v' would become sick].
(医者には彼に、たばこをやめなければ病気になるよと言った)

① 赤のマーカ―は、後ろから名詞を修飾する語句です。その語句によって修飾される名詞には、赤い下線を引いています。

② () は副詞の働きをする語句、[] は名詞の働きをする語句です。
※() の語句を省いて考えると、文全体の構造がわかりやすくなります。

③ 文の要素 (SVOC など) を小さな文字で入れています。

- **S'・V'** などは、従属節や修飾語句中の要素であることを示します。
- 「**関**」は関係詞、「**接**」は接続詞、「**疑**」は疑問詞です。

①～③の記号は必要に応じて入れており、文構造に関するすべての要素が記号化されているわけではありません。また、次のようなアイコンも使用しています。

- **分析** は、過去のセンター試験の出題傾向などの説明です。
- 問題の冒頭には、**基本**、**やや難** などのレベル分けや、**注意** (ミスをしやすいいもの)、**よく出る** (出題の可能性が高い) の記号をつけています。

センター試験対策のポイント

文法学習のポイント

センター対策の文法学習のポイントは、「センター試験に出題されやすい分野・項目を重点的に学習する」、言い換えれば「出題される可能性が低い項目は学習しなくてよい」ということです。

過去のセンター試験第2問の空所補充や整序作文の問題を見ると、文法の頻出分野には明らかな「偏り」が見られます。最も出題頻度が高いのは、次のような〈述語動詞の形の識別〉に関する問いです。

The number of foreign workers () in this area since 2005.

- ① is increased ② has increased
③ increases ④ is increasing

➡ 正解は②(「2005年以来、この地区では外国人労働者が増えてきている」)。現在完了形がポイント。

この種の問題の関連分野は、時制・助動詞・仮定法・受動態です。また、接続詞・関係詞・不定詞・分詞・動名詞なども第2問の頻出分野です。一方、たとえば次のような問いは本書では取り上げていません。理由は、過去に出題例がないからです。

I was made () until late at night by them.

- ① work ② working ③ to work ④ worked

➡ 正解は③(「私は彼らによって夜遅くまで働かされた」)。They made me work ...を受動態にすると、原形不定詞(work)にtoがつくのがポイント。

「将来出題される可能性はないの？」と思うかもしれませんが、その可能性もまずゼロです(この文自体、普通の英語ではありません)。そのあたりの判断は筆者の主観によりますが、「本書で取り上げていない学習項目は、センター試験対策では不要」と割り切って学習してください。

第1章
時制

時間を表す動詞の形を〈時制〉と言う。過去のデータを見ると、センター試験の文法（穴埋め）問題では、〈述語動詞の形の判別〉に関する問いの出題例が最も多い。中でも、〈時制〉は最重要のジャンルと言える。なお、時制のうちでも特に出題例が多いのは、〈完了形〉である。受動態などと組み合わせて複雑な形になったものにも注意しよう。

基本問題

STEP 1 時・条件を表す節中の現在形

問 () 内から正しいほうを選びなさい。

If it (rains / will rain) tomorrow, I will stay home.
(もし明日雨が降れば、私は家にいるつもりです)

解説 〈時〉や〈条件〉を表す接続詞の後ろでは、**will**は使えない。未来の内容も現在形で表す。

分析 穴埋め問題で「現在形」が正解となるのは、ほぼこのケースに限られる。

時を表す接続詞

when (～するとき)	as soon as (～するとすぐに)
after (～した後で)	before (～する前に)
till / until (～するまで)	by the time (～するまでに)
the next time (今度～するとき)	など

条件を表す接続詞

if (もし～なら)	unless (もし～でなければ)
in case (～するといけないので)	など

ただし、これらのうち when と if については、後ろに will がくることがある。

	+現在形	+ will ~
when	～するとき	いつ～するか
if	もし～なら	～かどうか

- I don't know **when** she **will be** back.
(彼女がいつ戻るか私は知りません)
- I'll ask her **if** she **will come** to the party.
(パーティに来るかどうか彼女に聞いてみます)

なお、現在形は次のような意味でも使う。

- My sister **goes** to college.
(姉は大学に通っている) 〈現在の習慣〉
- He **leaves** for Paris today.
(彼は今日パリへ発つ) 〈確定した未来〉

STEP 2 時・条件を表す節中の現在完了形

問 () 内から正しいほうを選びなさい。

Please lend me the book when you (have finished / will have finished) reading it.
(あなたがその本を読み終えてしまったら、私に貸してください)

解説 when 「～するとき」の後ろでは **will** は使えないので、**未来完了形** (will + have + 過去分詞) の代わりに**現在完了形** (have + 過去分詞) を使う。STEP 9

STEP 3 近い未来の予定を表す現在進行形

問 () 内から正しいほうを選びなさい。

The train (has arrived / is arriving) in a few minutes.
(列車はあと数分で到着します)

解説 **現在進行形**が近い未来の予定 (「～することになっている」) を表す例。go・come・start・leave・arrive などの動詞がしばしばこの形で用いられる。

STEP 4 過去進行形

問 [] 内の動詞を適切な形に変えて () 内に入れなさい。

When he called me, I (**was taking**) a bath. [take]
(彼が電話をくれたとき、私は入浴していた)

解説 過去のある時点 (この場合は「彼が電話をくれた」時点) で進行中の動作は、**過去進行形** (was [were] + 過去分詞) で表す。

STEP 5 未来進行形

問 [] 内の動詞を適切な形に変えて () 内に入れなさい。

I will (**be working**) at eight this evening. [work]
(今晚8時には私は仕事をしているだろう)

解説 未来のある時点で進行中の動作は、〈will + be + ~ing〉で表す。現在進行形と同様に、近い未来の予定を表すこともある。

- This train **will be stopping** at Nagoya Station.
(この列車は名古屋駅に停車します)

STEP 6 進行形にできない動詞

問 () 内から正しいほうを選びなさい。

Keiko (**belongs / is belonging**) to the tennis club.
(ケイコはテニス部に所属している)

解説 次のような〈状態〉を表す動詞〔「~しつつある」という言い方ができない動詞〕は、**進行形**にできない。

see (見える)	hear (聞こえる)
taste (～の味がする)	know (知っている)
own (所有している)	resemble (似ている)
consist of ~ (～から成る)	belong to ~ (～に所属している)

STEP 7 現在完了形・現在完了進行形

問 () 内から正しいほうを選びなさい。

He (**is working / has been working**) in this office for ten years.
(彼はこの職場で10年間ずっと働いている)

解説 過去から現在まで引き続く動作〔「ずっと~し続けている」〕は、**現在完了進行形**〈have [has] been + 過去分詞〉で表す。for (～の間) や since (～以来) とともに使うことが多い。STEP 91

なお、現在完了形〈have [has] + 過去分詞〉は次のように使う。

- I **have already finished** my work.
(私はもう仕事を終わってしまった) (現在は完了している動作)
- I **have lived** in this town for five years.
(私はこの町に5年間 (ずっと) 住んでいる) (現在まで継続した状態)

〈参考〉live は状態を表す動詞だから進行形にしない (STEP 6)。したがって、I have been living ... とは言わない。

- I **have never visited** Okinawa.
(私は沖縄を訪れたことが一度もない) (現在までの経験)

「～へ行ったことがある」は、**have [has] been to** ～ で表す。

- **Have you ever been to** Okinawa?
(沖縄へ行ったことがありますか)

STEP 8 過去完了形・過去完了進行形

問 [] 内の語句を適切な形に変えて () 内に入れなさい。

When I arrived, the train (**had already left**). [already leave]
(私が到着したとき、列車はもう出てしまっていた)

解説 過去のある時点までに完了 (経験・継続) していた動作などは、**過去完了形**〈had + 過去分詞〉で表す。

- I **didn't remember** his name, though I **had seen** him before.
(以前会ったことがあったが、私は彼の名前を覚えていなかった)

過去のある時点まで (それ以前から) 継続していた動作は、**過去完了進行形**〈had been + 過去分詞〉で表す。

- I **had been waiting** for her for an hour when she appeared.
(彼女が現れたとき、私は1時間待ち続けたところだった)



STEP 9 未来完了形

問 () 内から正しいほうを選びなさい。

He (**has finished / will have finished**) the job by tomorrow.
(彼は明日までにその仕事を終わらせてしまっているだろう)

解説 未来のある時点までに完了していることからは、**未来完了形**〈will have + 過去分詞〉で表す。



現在完了形と同様に、〈継続〉や〈経験〉の意味でも使う。

- I'll **have lived** in this town for ten years by next month.
(私は来月でこの町に10年住んだことになる)